

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム こんふおーる	評価実施年月日	平成21年9月1日
評価実施構成員氏名	舘岡博子 邊見節子 塚本紘子 山家貴之 田澤久美子 佐々木あかね 高松希三子 飯岡裕介 菊田なつき		
記録者氏名	舘岡 博子	記録年月日	平成21年9月25日

北海道

は外部評価項目
屋

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>外出時には、近隣の方と気軽に挨拶をすることで、ゆっくりとした生活を感じてもらい、四季折々の行事や作業を通じて季節を理解しその中で、尊厳のある生活ができるよう支援しています。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>理念を基に日々対応することで理念の実践を心がけている。</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>推進会議にて地域での生活を大切にしていることを話している。また、家族へは、現在の暮らしぶりを伝え、共に生きることを理解してもらっている。</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>近隣の方と会った時は必ず挨拶を交わしている</p>		
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内会の行事に参加している。ホームでの行事でも、近隣の方が参加する事もある。町内会の加入はしていない</p>		
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>推進会議にて話し合いをしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>13 ○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>日常生活の中で、入居者との会話や行動から意見、不満、苦情を汲み取り、職員間で協議し改善に向けて取り組んでいる。(内容によりケアプランにも反映している)</p>	○	<p>入居者個々をもっとよく知りその方の望む生活ができるように、個々に担当者をつけて取り組んで行く。</p>
<p>14 ○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>毎月1回のお便りを送付し、日常生活の様子、健康状態を報告し、出納帳にて金銭管理の報告をしている。また、体調が著しく変化した時や病院受診した時は、電話にて報告している。面会時にも日々の様子を伝えている。面会の回数が少ない方は、定期的に電話をしたり、来訪の促しをしている。</p>		
<p>15 ○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>意見箱の設置をしている。家族の面会時や電話にて、意見、不満、苦情などを話して頂ける様にしている。家族からの意見はその日のうちに、当日の勤務者はスタッフの連絡ノートにて情報の共有を行い、個人記録にも記載し、その日のうちに話し合い改善に向けて取り組んでいる。</p>		
<p>16 ○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎月1回のミーティングや日々の業務の中で個々に面談を行い意見や提案などを汲み取り管理者とスタッフ全員で協議した上で反映できることは反映させている。</p>		
<p>17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>入社時に公休であっても行事等で人員の確保ができない時は、ボランティア又は休日出勤とすることや、スタッフの体調不良や慶弔などで欠勤する場合もあるので入居者の生活に支障をきたさない為にも、適時勤務の調整を行うことを説明し同意を得ており、必要時に実施している。</p>		
<p>18 ○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>職員と話し合いを重ね、必要最小限に抑えている。また、顔なじみの関係になってからの身体介助や夜勤業務を行えるよう配慮している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>		
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居だけが解決策ではないので、家族の悩み等を再度問う。他のサービス利用や家族の支援等確認する。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居の前には見学をしてもらっている。見学はいつでも可能であり、不安な事や疑問点は随時説明をしている。家族から生活習慣を聞いたり、馴染みの物を置いてもらったりして、全てが知らない場所・物、知らない人という状況で不安にならないよう、工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	入居者が主体となるような行事を行っている。一緒に作業をし、喜びを共有したりし、お互いに支えあう関係を築いている。一方的なケアは行わず、要望を聞き「話し合い」をしている。年間行事、日常生活等では、共に楽しめる事を前提に考えている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	行事への参加の呼びかけを行っている。一緒に楽しむ機会を提供している。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	面会時や家族との外出時はゆっくり過ごしてもらえるよう配慮している。本人と家族の距離が離れないよう、行事の参加や、買い物等の協力をしてもらっている。元気な姿が見れるように、毎月のお便りには本人の写真をつかけたり等支援している。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友人の来訪・電話・手紙等関係が途切れないよう、支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	行事や散歩など、気の合う者同士行動できる様、全スタッフで話し合う場合もある。入居者同士の会話が苦手な方には、スタッフが会話の間に入りつなげ、お互いの関係が築けるよう支援している。入居者同士トラブルや問題が生じた時は、全スタッフで話し合っている。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退居後も相談が来た場合は応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人に直接尋ねたり、家族や親族等にも聞き、把握に努めている。生活習慣、日課を大切にしているが、困難な事は代替のケアを提供している。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の面談時、又、本人や家族、関係者からの情報収集に努めている。		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	生活パターンのチェック表(睡眠・排泄・水分)を使用している。また、記録や申し送りを通じて個人の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	申し送りやミーティングにて情報を収集し、全スタッフの意見や考えが聞き取れるようにしている。スタッフは普段の関わりから本人の意向を聞きだしている。家族からは、面会時や介護計画の説明時に要望、意見等を聞き、介護計画に反映させている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>37 ○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>介護計画変更の必要性の時には、対応している。介護計画見直しは定期的に行っている。</p>		
<p>38 ○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個別の記録以外にも、連絡ノート等の活用、ミーティングで話し合いもしている。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
<p>39 ○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>家族を招待した行事(納涼祭やクリスマス会等)や、活動を季節に応じて支援している。併設のデイサービスで行う事もある。</p>		
<p>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</p>			
<p>40 ○ 地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p>	<p>現在の所、そのような事例はないが、必要性が生じれば対応したい。</p>		
<p>41 ○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。</p>	<p>病院の相談員に本人の意向に添ったサービスについての相談等行っている。</p>		
<p>42 ○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>	<p>現在の所、そのような事例はないが、必要性が生じれば対応したい。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。	往診で来ている医師は、開設当初より来ている。認知症への理解もあり、相談しやすい状況である。認知症の方にとってより良い環境を熟知しており、治療方針にも反映している。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	往診で来ている医師は、開設当初より来ている。認知症への理解もあり、相談しやすい状況である。認知症の方にとってより良い環境を熟知しており、治療方針にも反映している。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	往診の付き添いの看護師は、協力病院の外来で勤務しており、症状の変化や緊急時の対応窓口となっている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	主治医も早期退院に向けた取り組みをしている。病状の確認を適時に行い、家族を含めた話し合いも適時設けている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化に至るようなケースが生じた時は、すぐに家族や主治医と話し合う。医療的管理が必要になれば、協力機関へ願います。グループホームでの生活を続ける場合、主治医から指示をもらい対応している。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	主治医とホームとで、お互いの必要性やホームでの取り組み内容・限界を伝えている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	生活の様子を伝えたり、注意点等細かく情報提供している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	個人記録には本人以外の名前を記入しない。声掛けは本人の不快感をしない様にしている。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	本人が思いを表せれるよう、言葉掛けを多くせず、分りやすい言葉や表情、仕草で伝える事もある。自分で選ぶ事が出来るよう、選択肢を出し、選んでもらう事を提供し、満足感を得られるよう支援している。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	認知症により、自己決定が低下している場合は、目線、仕草、言動を分析し対応している。天候や体調も考慮し何をするか提案する時もある。一方的な話し方をしないで、選択肢を出し、選択権を持ってもらうようにしている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	行事の時は化粧をしたり、夏祭りには好きな浴衣を選んでもらったりしている。男性の髭剃りは、自分でできない所は一部介助し、女性の顔剃り等の身だしなみにも間違い支援するよう努めている。		
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	調理に参加したり、食事の後片付けを行ってもらっている。調理中の匂いで「今日は何かな？」と会話をし、イメージにつなげたり、味見をしてもらったり等食に対しての楽しみを持ってもらっている。食器拭きやテーブル拭き等もスタッフと一緒にしている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	嗜好を聞き、誕生会では誕生者の好みの物を提供するよう心掛けている。日常の食事でも、好き、嫌いを聞き、又、旬の食材もメニューに取り入れている。面会時に本人にお菓子等を持参された場合は、居室で御家族と一緒に食べてもらうか、スタッフと会話しながら自室で摂取している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄のパターンを把握し、適時誘導をしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴を拒否する方、入るタイミングや声掛けの工夫が必要な方も居る為、誘導や声掛けの工夫や、タイミングを計っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日中はリビングで過ごす方が多いが、自室で休む、ラジオを聴く、テレビを見る等で自室で休息する事もある。日中の活動を工夫し、適度な疲れを感じられるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	昔の仕事内容や趣味等の情報収集し、天気の良い日は散歩に出たり、畑と一緒に رفتりしている。室内では食器拭きや洗濯たみ等の各自役割がある。体操やレク活動では、体、頭を使うよう工夫し、ストレス発散と、適度な疲れを促している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭の預かりをしている方も居るが、手元に無いと不安という方に関しては、紛失しても支障のない額を御家族と相談の上本人持ちにしている方も居る。買い物に行く際は、スタッフが付き添う。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩や買い物に行っている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	イチゴ狩りや動物園、ドライブ等行ったりしている。家族にも行事参加を呼びかけ、一緒に参加する事もある。月一度の行事を行っている。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話が来た際は取り次ぎ、掛けたいと希望があれば、本人の状態に合わせ支援している。手紙は本人に渡し、読めない時はスタッフが代わりに読む等支援している。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間は決まっておらず、いつでも自由に訪問できるよう、いつでも来て下さいと声をかけている。面会時は笑顔で明るく出迎え、帰る際も気持ちよく帰れる様声掛けをしている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束は行っていない。勉強会やミーティングで取り上げている。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室には鍵はかけず、日中も玄関は鍵をしていない。玄関にはチャイムが鳴るよう、センサーがついている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>67 ○利用者の安全確認</p> <p>職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>居室で過ごしている際は、さりげなく様子を見に行っている。日中・夜間共に足音、物音に気を配っている。</p>		
<p>68 ○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>各個人持参している物は違う。私物で危険な物品(刃物等)は預かったり、撤去している。夜間においては、刃物、洗剤類等は決まった場所に保管している。</p>		
<p>69 ○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>ミーティングや勉強会で取り上げたり、申し送り時に口頭説明を行ったりしている。連絡網の設置。</p>		
<p>70 ○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>ミーティングや勉強会で取り上げたり、申し送り時に口頭説明を行ったりしている。事故報告書の見直しを各職員行っている。連絡網の設置。</p>		
<p>71 ○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>避難訓練を行っている。町内会長を初め、近隣の店等に応援の依頼をしている。地域の方とも、会えば挨拶をしたりしている。</p>		
<p>72 ○リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。</p>	<p>事故の予測や危険の回避を入居前に話し、入居してからも生活状態を踏まえ、状態変化や、今後の予測に対する対応やリスクを説明している。</p>		
<p>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</p>			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	普段の表情や仕草、会話等関わる中で、普段と違うと言う事を感じ取り、気付いた際には口頭、個人記録、連絡ノートにて情報を共有し、申し送り時を通じて対応策や、注意点を周知している		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個々の病歴や処方箋を見て、薬の目的、副作用等理解に努めている。服薬の支援を行い、確実に服用して頂いている。副作用については全スタッフ情報を共有し、転倒、事故等ない様対応している。主治医にも報告・連絡・相談している		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	朝食後にはヨーグルト、10時水分補給時は牛乳を摂取。毎日の体操の中で腹部を動かす体操も取り入れている。十分な水分、偏食にならないよう調理等の工夫、適度な運動も行っている		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後口腔ケアを行っている。スタッフが磨き残しはないか等口腔内を確認している。義歯は洗浄剤を使用している。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	1週間の献立を作成し偏りのない調理、食事に心がけている。入居者の状態に合わせて、粥やキザミ食等で提供している。水分は、熱発時や服薬の内容等に合わせて、普段より多めに水分を摂って頂き、個々の状態に合わせて支援している。声掛け・促しが必要な方にも個々に合った声掛け・促しを行っている		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルの設置 勉強会でも取り入れている		

屋

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	新鮮で旬な食材を利用している。冷蔵庫掃除、まな板、キッチン周りの消毒は毎日行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	玄関周囲には花を置いている。絵や小物を飾り、柔らかく暖かい雰囲気を作っている。玄関内には座るスペースもある。		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	室内には観葉植物を設置したり、玄関には季節の花や物を置いている。		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	畳や2階に談話コーナーがあり、入居者同士会話している。気の合う人同士をスタッフが声を掛け席を移動し環境設定している		
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	使い慣れた家具や洋服、小物等、それぞれの思い出の品を居室に配置したりしている。写真や絵を飾り、自分だけの空間を作っている		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	常に換気に気を配り、湿度が下がらないよう加湿器を使用したり、暖房の調整を行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>事故につながるような物は置かず、環境整備している。階段は両側手すりがあり、両方に掴まれるよう幅を狭くしている</p>		
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>食事やおやつ等は決まった時間に提供し、生活にメリハリをつけている。声掛けは明確・簡単にし(表情や仕草等)伝えている</p>		
<p>87</p> <p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>裏の畑では入居者と家庭菜園等行い、建物の周囲にはプランター設置している。裏にはベンチも設置し、バーベキューや納涼祭等のスペースもある</p>		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input checked="" type="radio"/> ① 毎日ある <input type="radio"/> ② 数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③ たまにある <input type="radio"/> ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての家族 <input type="radio"/> ② 家族の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 家族の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどできていない